



5病棟の生活のひとコマ 73

厳しい暑さも少しずつではありますが落ち着いてきましたね。季節の変わり目で体調を崩しやすい時期ですので、体調管理にはより一層お気をつけください。さて5病棟では、8月に「夏祭り」を開催いたしました。今年はボウリングとボール釣り、写真スポット、おやつコーナーの4ブースを用意し、感染対策を実施しながら、すべての患者さんにご参加いただきました(会場が密にならないよう



人数制限をしながら、一部ご家族の方にも参加していただきました)。ボウリングではピンを全部倒して楽しそうにニコニコ笑う患者さんや、ボール釣りでどんなものが釣れるのだろうとドキドキした表情をされる方など、普段は見る事ができないさまざまな表情を見ることができました。また、カラフルな提灯や美味しそうな屋台の食べ物などで飾られた写真スポットでは、法被を着て記念撮影をし、みなさんとても素敵な笑顔を見せてくれました。おやつコーナーでは普段飲まない炭酸ジュースにびっくりしながらも、嬉しそうに味わう姿がみられ、患者さんにとって楽しい時間になったと思います。これからも5病棟では、患者さんに季節を感じていただけるさまざまな療育活動を行っていく予定です。(児童指導員 森 日奈子)



2病棟の子どもたちの生活のひとコマ

前回のニュースレターでお知らせした、2病棟に入院する子どもたちとスタッフとで運営する「にじいろガーデン」に、今夏も「ひまわり」が大輪の花を咲かせてくれました。



この「ひまわり」にはエピソードがあり、実は2011年に発生した東日本大震災の津波の塩害跡地に咲いた、「ど根性ひまわり」の子孫だったのです。

2世、3世と命をつなぎながら今や日本全国、さらには海を越えて大勢の方に育てられており、当院にも縁あって2019年、子どもたちが通う県立かがやき特別支援学校から「ど根性ひまわり9世」の種をいただきました。そこから毎年春に種を蒔き、夏には素敵な花を咲かせてくれて、今年で12代目にあたる「ど根性ひまわり12世」が咲いたのでした。

そして、咲き終わった12世のひまわりからは無事、13世の種を収穫することができ、「ど根性ひまわり」の子孫を残すことができました。

来夏もひまわりを育て、未来の子どもたちに震災を忘れない、風化させない、そしてどんなことがあっても「ど根性ひまわり」のように力強く生きていこう、といったメッセージを伝えていきたいと思います。

(保育士 伊藤 真衣)

みえツうちゃんが誕生しました。



看護部 マスコットキャラクターづくり隊

三重病院は、「山の方の病院」「郊外の病院」とまだまだ認知度が低く、もっと親しみのある病院を作るにはどうしたらいいかと考え、病院のマスコットキャラクターを作成する計画を立てました。6月幹部会議で承認を得た後、管理診療会議で所属長にプレゼンテーションを行い、マスコットキャラクターの募集を病院職員に行ったところ、38通の応募が集まりました。職員236人の投票で、『みえツうちゃん』が最優秀賞に決定しました。



『みえツうちゃん』の名前の由来ですが、

- ★「みえツうちゃん」のツ⇒このあたりには、つつじが多く
- ★「みえツうちゃん」のウ⇒ウグイスがよく鳴いており、地域の皆様より親しまれている
- ★「みえツうちゃん」のツウ⇒津市の方言です



★精通の通で「人に知らせる」、鳥なので羽ばたいてゆくの意味が込められています
皆様、三重病院の新しいお友達『みえツうちゃん』を、よろしくお願い致します。